

1978年宮城県沖地震から40年 2008年岩手・宮城内陸地震から10年

1. 1978年宮城県沖地震から40年

1978年宮城県沖地震から間もなく40年が経過します。

戦後初の都市型の地震災害として、宮城県仙台市を中心に建物被害、宅地の崩壊やブロック塀の倒壊により甚大な被害となりました。

地震保険では当時、建物が全損となった場合にのみ保険金支払いの対象となっていたことから、保険金は2億6千万円余りとどまりました。

この地震災害を契機に地震保険制度が見直され、1980年に半損区分の新設や保険金額の拡大等の改定を行いました。

また、この地震を教訓に1981年には建築基準法が改正され、現在の耐震基準に見直されました。

① 1978年宮城県沖地震の概要

1978年6月12日17時14分にマグニチュード7.4の地震が発生し、宮城県仙台市、宮城県石巻市、岩手県大船渡市などで最大震度5（当時の震度階）を観測しました。

この地震により、死者28名、負傷者1,325名、住家の全壊1,183棟、半壊5,574棟の甚大な被害となりました。

気象庁は、「1978年宮城県沖地震」と命名しました。

② 1978年宮城県沖地震での地震保険再保険金支払い状況

2018年3月末現在

地震名	地震発生日	地震規模	再保険金	
			証券件数	支払再保険金
1978年宮城県沖地震	1978年6月12日	M7.4	190件	262,079千円

・当時、全損のみが保険金支払いの対象。

2. 2008年岩手・宮城内陸地震から10年

2008年岩手・宮城内陸地震から間もなく10年が経過します。

岩手県内陸南部の深さ10Kmで発生した地震は、内陸の直下型地震で被害は山間部に集中しました。

地震保険では55億円の保険金をお支払いしました。

① 2008年岩手・宮城内陸地震の概要

2008年6月14日8時43分にマグニチュード7.2の地震が発生し、岩手県奥州市、宮城県栗原市で最大震度6強を観測しました。

この地震により、死者17名、行方不明6名、負傷者426名、全壊家屋30棟、半壊146棟の甚大な被害となりました。

気象庁は、「2008年岩手・宮城内陸地震」と命名しました。

地震の揺れの強さを表す最大加速度は国内観測史上最大の4022ガルを記録し、ギネスの世界記録に認定されていることでも知られています。

② 2008年岩手・宮城内陸地震での地震保険再保険金支払い状況

2018年3月末現在

地震名	地震発生日	地震規模	再保険金	
			証券件数	支払再保険金
2008年岩手・宮城内陸地震	2008年6月14日	M7.2	8,276件	5,545百万円

・1966年に地震保険が誕生して以来、過去11番目に大きな支払再保険金となりました。

3. 宮城県の地震保険契約状況

これまで宮城県沖地震は周期的に繰り返し発生しており、国の地震調査研究推進本部が今後30年以内に99%の確率で再来するとの公表等を踏まえ、宮城県では地震への備えとして地震保険の契約が増加し、世帯加入率では全国平均を上回る状況でした。

さらに2011年3月の東日本大震災を経て、現在では地震保険の世帯加入率は51.8%、付帯率86.4%と全国トップの状況です。

	宮城県	全国
2016年世帯加入率	51.8%	30.5%
2016年度付帯率	86.4%	62.1%

- ・損害保険料率算出機構ウェブサイト <https://www.giroj.or.jp/> の公表データに基づく数値です。
- ・世帯加入率は2016年12月末保有契約件数を2017年1月1日時点の住民基本台帳に基づく世帯数で除した数値です。
- ・付帯率は2016年度に契約された火災保険（住宅物件）契約件数のうち、地震保険を付帯している件数の割合です。
- ・地震保険は地震等による被災者の生活の安定に寄与することを目的として、政府と民間損害保険会社が共同して運営する保険です。

私たちは過去の地震災害を振り返り、その教訓を踏まえ、地震・噴火・津波の備えとしての地震保険の重要性をお伝えしてまいります。

以上